

**フレッツ光におけるIPv6インターネット普及に向けた  
NTT東西の当面の取り組みについて**

**2012年6月28日**

**東日本電信電話株式会社  
井上 福造**

# 1. IPv6インターネットの普及促進に向けた取り組み状況1

## IPv6 PPPoE（トンネル方式）に係る検討

課 題		考慮が必要な事項
IPv6トンネル対応アダプタ導入に係る負担軽減	コストについて	<ul style="list-style-type: none"><li>• PPPoEの終端にはユーザ宅内に何らかの機器が必要となる。当社としては機器の出荷台数が増えればコストを下げられる可能性があるため、ISP様に需要数を確認しているところ。</li><li>• ひかり電話対応ルータへの機能実装は、対応可能な機種が限られることに加え、開発費の負担、交換費用のコスト負担が課題。ISP様との協議を開始したところ。</li></ul>
	設定について	<ul style="list-style-type: none"><li>• 現状のPPPoE方式の仕様では、IPv4/IPv6のそれぞれについて、認証用のID/パスワードを設定する必要があるが、当社で提供しているフレッツ簡単セットアップツールを利用することで、1回のユーザ操作にて、IPv4用のひかり電話対応ルータとIPv6トンネル対応アダプタの設定を自動で行うことが可能。</li></ul>
IPv4/IPv6のデュアル化	網終端装置	<ul style="list-style-type: none"><li>• IPv4/IPv6を別々の網終端装置で終端しているが、一の網終端装置でIPv4とIPv6の双方での接続を可能とする装置を、平成24年12月以降から順次、提供を予定。</li><li>• 既設の網終端装置は、小容量の網終端装置を除き同時期にファームアップにて対応を予定。</li><li>• 7月にISP様向けの説明会を実施予定。</li></ul>
	1セッションでのIPv4/IPv6対応	<ul style="list-style-type: none"><li>• IPv4/IPv6は別々のセッションで利用しているが、ひとつのセッションで双方の接続を利用可能とするよう要望をされている。この要望を実現するとした場合、網終端装置の開発、端末の開発が必要になるとともに、1セッションと2セッションをご利用のユーザが混在するなど、課題が想定されるため、関係者と検討を進める。</li></ul>

## 1. IPv6インターネットの普及促進に向けた取り組み状況2

### IPv6 IPoE（ネイティブ方式）に係る検討

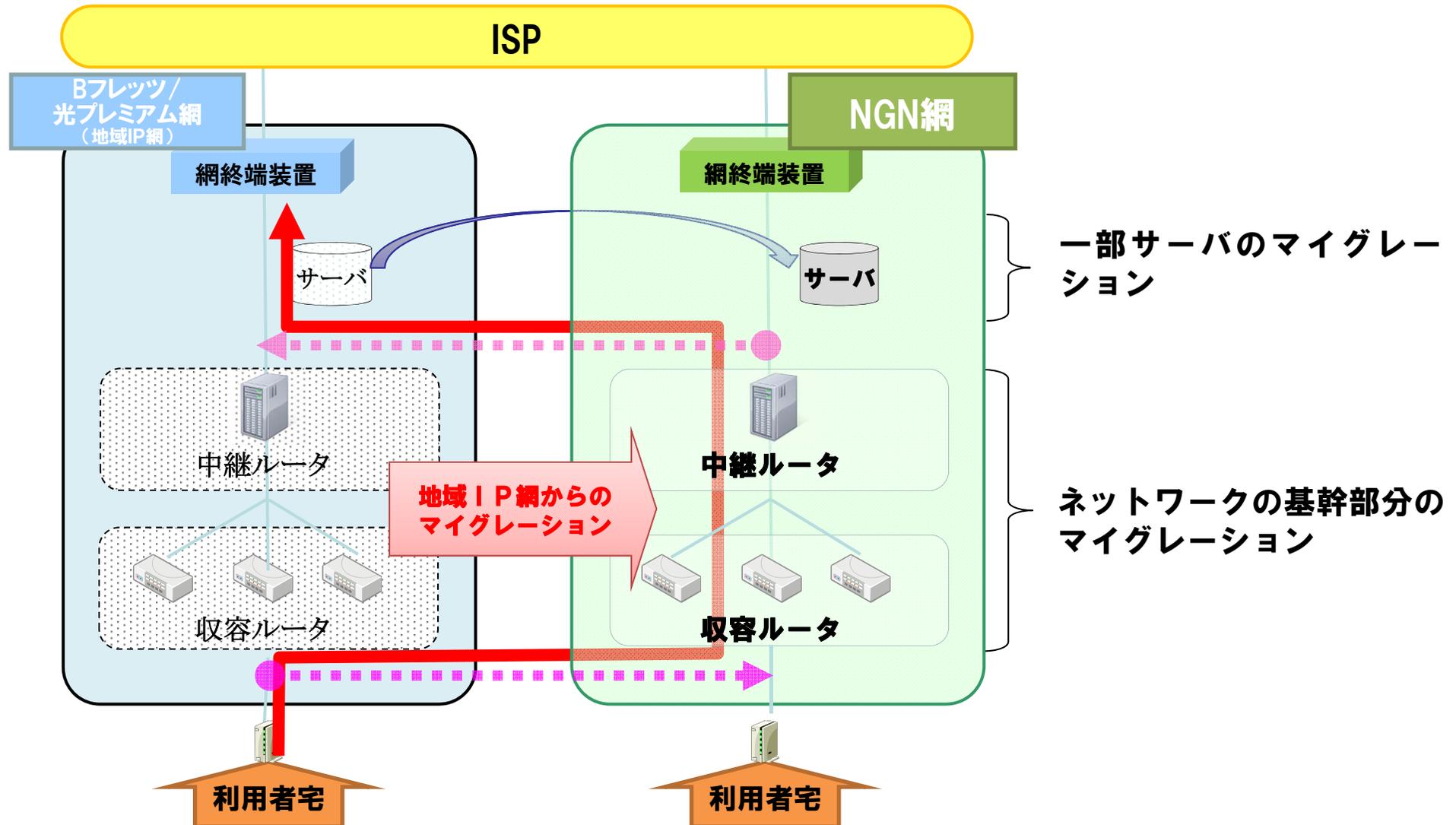
課 題		考慮が必要な事項
申し込み手続きの改善	お客さま申し込みの簡素化	・ VNE事業者様と具体的な事務手続きについて協議中。 （更なる簡素化については、個人情報の取扱いに留意し検討を進める）
	フレッツ・v6オプション申し込みの簡素化	・ 新規申し込み回線へのフレッツ・v6オプションの工事費無料化を実施済み。 NTT東日本：5月29日申し込み分より NTT西日本：6月1日申し込み分より
VNE事業者数の拡大等について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的な可能参入数とスケジュールについて今秋に公表予定。</li> <li>・ なお、相互接続点（POI）増設については、増設したPOI全てに全VNE事業者様に接続していただく仕様となっていることから、その条件を踏まえて、VNE事業者様と協議。</li> </ul>

### Bフレッツ／光プレミアムに係る検討

課 題	考慮が必要な事項
Bフレッツ／光プレミアムからNGNへのマイグレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイグレーションはネットワーク基幹部分は平成24年度末に、一部サーバーについては平成25年度末を目途に完了。</li> <li>・ マイグレーション完了後のIPv6インターネット提供方法について検討中。</li> </ul>

## (参考) Bフレッツ/光プレミアムのマイグレーションのイメージ

マイグレーションはネットワーク基幹部分はH24年度末に、一部サーバーについてはH25年度末を目途に完了。  
マイグレーション完了後のIPv6インターネット提供方法について検討中。



## 参考：World IPv6 Launchの状況について

「World IPv6 Launch」の、網内装置のトラフィックは以下の通り。各ISP/CSPの対策が進み、懸念されたフォールバックの数は減少している。お客さまからの申告は数十件あったものの、そのほとんどはWorld IPv6 Launchのそのものに関する問い合わせであった。

